

2016年(平成28年)11月15日発行



会員便り 第63号

公益社団法人 広島県社会福祉士会 広報委員会 編集

〒732-0816 広島市南区比治山本町12-2 広島県社会福祉会館内 TEL: 082-254-3019 FAX: 082-254-3018

第3回社会福祉政策勉強会 開催報告

相模原殺傷事件から精神保健福祉の現状と課題について考える

10月19日(水)の13時30分から、広島県社会福祉会館2階にて第3回社会福祉政策勉強会が開催されました。この勉強会は、広島県内の県議会議員、市町議会議員を対象とする勉強会で、年3回開催しています。今回は、本会理事を含め、16名が参加しました。

今回は、7月に障害者支援施設「津久井やまゆり園」で起こった相模原殺傷事件を取り上げて勉強会を行いました。まず、藤原久礼会員より事件の概要説明を行った後、賀茂精神医療センターの精神保健福祉士、大下哲史氏に「精神保健福祉の現状と課題」というテーマで講演していただきました。精神疾患の説明や平均在院日数が他の先進国と比べて長いという精神科医療の現状を話していただいた後、措置入院の問題や退院後の支援体制、精神障害者の犯罪についてご説明いただきました。また、地域の中で孤立している患者が多く、適切な治療に結びつけることが大切であることや精神科の治療は「症状を改善させる」ためのものであり、「犯罪防止」のためにあるのではないことなど、精神科医療の現場からの貴重なご意見を伺うことができました。

後半は河口幸貴会長に「事件からたどる入所施設福祉の課題」というテーマで講演していただきました。まず、全国手をつなぐ育成会連合会 久保厚子会長の、障害のある当事者に向けたメッセージや新聞等で報道されている様々な立場からの視点が紹介され、施設のあり方やノーマライゼーションにまで踏み込んで話していただきました。さらに、入所施設で夜勤中に侵入者があった場合どういう対応ができるのかということをお話していただきました。その上で、人材育成の問題や障害福祉計画など自治体の課題についての言及もされて、議員の方々も大いに納得されていました。有意義な勉強会になったのではないかと思います。

(調査研究委員会 委員長 西岡 浩一)



次号、広報紙は1月に発行予定です

11月号 第3回社会福祉政策勉強会報告 /報告 熊本地震被災地支援活動に参加して /報告 安佐南区・安佐北区 困りごと無料相談会 /報告 第5回リカバリー・パレード「回復の祭典」in ヒロシマ / 会員紹介リレー /広島県地域生活定着支援センターNEWS /事務局新職員紹介 /こころが喜ぶツール /県内ソーシャルワーカー3団体新年互礼会お知らせ /広告記事掲載募集 編集後記

報告

熊本地震被災地支援活動に参加して ～復興を願う～



9月1日～9月6日まで、熊本地震の被災地支援に行ってきました。全国各地の社会福祉士会会員が2名ずつ派遣され、引継日を含めて6日間の活動でした。

私は、東京都の会員と「にしはら地域包括支援センター（阿蘇郡西原村）」への派遣でしたが、8月29日から「益城町西部圏域地域包括支援センター（上益城郡益城町）」での支援が開始した直後で、支援活動の内容を組み立てている最中であると聞き混乱の様子が伺えました。

支援の内容は、仮設住宅を訪問し「要援護者情報シート」の内容を充足していくものでしたが、自宅の片づけや農業などで何度伺っても留守のお宅があり、現地の地域包括支援センター職員2名と連携しながら地道な活動を続けました。また、サロンへの参加や、避難所から自宅へ帰られた方のお宅へも訪問する中で、村の今の状況を目の当たりにし、一面に広がる被災した家屋に手がつけられないままという状況に大きな衝撃を受けました。

災害復興支援のために開設された「風の里司法書士相談センター」や、被災した動物の保護を目的とする施設「にしはらしっぽ村」への訪問、就労B型事業所「たんぼぼ食堂」での昼食の際のボランティアとの会話・・・等々、とても印象深い活動となりました。（写真右）

週1回の情報交換会では、村内の関係機関が集まって気になる方の情報を共有し、今後の支援内容や役割分担を確認するというものでした。その中で社会福祉士会からも支援内容を報告する時間があり、それまでの活動者のつながりから今の活動が成り立っているということに、確実な情報を引継いでいかなければならないという責任を感じました。

最後に、日本社会福祉士会を中心に、熊本県社会福祉士会の方々の手厚いフォローを受けながら活動を続けることが出来ました。この場をお借りしてお礼を申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りさせていただきます。（災害被災者支援委員会 委員長 平岡 和子）



安佐南区・安佐北区 困りごと無料相談会 開催

報告

～広島市豪雨災害から2年～



去る8月28日（日）、広島市豪雨災害から2年が経過することから、被災地域となった安佐南区・安佐北区の住民支援を目的に、「何でも相談会」が開催されました。

両区社会福祉協議会の協力を得て住民へ案内し、当日も近隣商店で紹介していくなどの周知を行いました。

様々な相談に対応するため、土業連絡会に参画する団体のうち弁護士、司法書士、建築士、技術士、税理士、社会保険労務士、精神保健福祉士、介護福祉士など11団体の土業が協力し、社会福祉士会からも相談員2名を派遣しました。堰

堤に関する相談や親子関係の相談等に対し、関係する複数の士業が違った視点から聞き取りや助言を行いました。

相談の合間には、各士業の活動内容について情報交換を行う場面もあり理解を深める良い機会ともなりました。
(災害被災者支援委員会 委員長 平岡 和子)

報告

今年も『リカ・パレ』に参加しました！

9月19日(月・祝)、「第5回リカバリー・パレード「回復の祭典」inヒロシマ」が行われました。

リカバリー・パレードは依存症や心の病を持つ人たちへの無理解、偏見、差別を取り除き、回復しやすい社会の実現を目指す活動です。

当日はあいにくの雨の中でのパレードとなりましたが、社会福祉士会からは4名が参加し、当事者、家族、友人、支援者等の皆さんと一緒に、広島紙屋町や本通りを歩きながら、大勢の人へメッセージを伝えアピールしました。

(障害児者支援委員会 委員 松田 ひろみ)



会員紹介リレー

西支部 かわはら なつ 河原 奈津さん

ゆかり歯科クリニック

在宅療養指導認定歯科衛生士

～どのような仕事もこころをこめて～



◆今のお仕事はどのようなことをされていますか。

父が認知症になり、介護支援専門員を受験。福祉を学ぶ必要を感じ、社会福祉の勉強をしました。介護支援専門員、短期入所生活介護施設の相談員を経て、現在は在宅療養指導認定歯科衛生士としての仕事をしながら、ばあとなあの後見人、乳児健診の口腔指導、口腔ケアの講師などを行っています。どのような仕事でも「心をこめて」ということを心掛けています

◆目標や心掛けている事についてお聞かせください。

生きる喜び、食べる幸せを感じてもらえるよう「食べる支援」を究めるべく、日々研鑽しています。自分の心、考えを感じるとともに、相手の心や考えに気づく人間でありたいと思います。

◆社会福祉士の活動から日々の業務に活かされていることを教えてください。

人間の持つ力をひき出すということです。自分の観念や感覚をおしつけることなく、その人のもっている力を引き出し、寄り添うことが大切ということ学びました。

◆趣味や自分なりの過ごし方について教えてください。

まず読書です。もとは文学部で、ほぼ乱読ですが、今は辻邦生の文章の美しさを味わっています。次は音楽鑑賞です。スカパーで録画したブルーレイを車で聴きながらの遠出の旅が大好きです。また、畑作業をしているので、「旬の野菜をいかにおいしく食べるか」を研究しています。

司法と福祉をつなぐ 広島県地域生活定着支援センター NEWS

《 高 齢 者 支 援 の 現 場 か ら 》

「受け入れてくれるところだったらどこでもいい」「もう年だから静かに暮らしたい」・・・ 矯正施設を退所した後、どのような暮らしがしたいかを尋ねると返ってくる言葉です。私たちが出会う高齢者の多くは、頼る親族がなく、障害や疾病等のため、生き難さを抱えたまま年を重ねています。センターでは、対象者となった高齢者が地域で暮らすために、様々な支援先につないでいます。今回は、地域の施設に暮らすことになったAさんのケースをご紹介します。

当時、Aさんは60代。軽度の知的障害があり、金銭管理がうまくできない上にお酒が大好きです。中学卒業と同時に生まれた町を離れ、他県で就職。10年間、働いたのですが、人間関係が嫌になり、実家に戻ります。

しかし、家族や親族と暮らすことにもしんどさを覚え、再び、他市へ。その後、親族の会社で働きますが、60歳を過ぎた頃に退職。年金と生活保護で生活を始めますが、金銭管理がうまくできず、酒代に消費。ついには、ワンカップを万引きし、生活保護受給停止され、アパートも引き払われてしまいます。行く当てもなく、ホームレス生活となり、酒1本を万引きし、刑務所に入所することになりました。

Aさんの希望は、3度の食事があること、金銭管理をしてもらいたいというものでした。そこで、まず、更生保護施設を利用し、その間、断酒会にも出席しながら、センター職員が同行し、老人ホームを3か所見学。そのうちのひとつに入所できました。現在もそのホームで生活を続けておられます。

(※事例は個人が特定されないように設定を加工しています。)

《当センター支援終了時点での受入先》	
10/21現在(但し全支援対象者)	
施設種別	人数
更生保護施設・自立準備ホーム	4
自宅・アパート	56
障害者支援施設	1
グループホーム・ケアホーム	11
病院	12
救護施設	5
サービス付き高齢者向け住宅	6
養護老人ホーム	6
有料老人ホーム	1
特別養護老人ホーム	1
無料定額宿泊所・簡易宿泊所	0
*全対象者(男性:110 女性:5)	115



事務局 新職員紹介



向垣内 桂子 (むこうがいち けいこ)

4月より事務局でお世話になっております。珍しい苗字なので、あれ?と思われる方も多いと思います。旧姓はありきたりな苗字でしたので、印鑑をすっかり忘れても「まあどこかで買えばいいや」と思っていたのですが、今はそうもいかず常に持ち歩くようになりました。家族は夫と二人の息子がいますが、長男は福岡県の大学に進学し、次男も高校卒業後は県外に進学するつもりらしく、順調すぎる親離れに戸惑いつつも遊びに行ける場所が増える…ということにしようかな、と考えております。高齢者施設と保育園での勤務経験があるとはいえ、勉強不足を痛感する毎日なので、皆様よりご指導のほどよろしく願いいたします。

こころが喜ぶツール

福祉車両の広がりについて

福祉車両の改造・開発は、現在各メーカーも一定のニーズを認識して一部門を形成しています。基本的に実用性から始まった車両改造は、快適性や趣味嗜好性を含んだカーライフのQOLという次元へ向かってきていると思います。2016年国際福祉機器展に展示された手動運転装置付きマツダ・ロードスターは、介護車両や福祉車両というイメージの幅を広げ、自ら乗り込んでドライブする楽しさやおしゃれ感を意識させるものと見えます。

むき出しの機械をはめ込みましたというような一昔前の改造から、インテリアの統一感へと配慮されたデザインも好ましく、ライトウエイトスポーツに乗り込むという楽しさを提供していると思います。

以前、若い車いすの方の運転支援に関わったとき、その方はキティちゃんの操舵片手ノブをネットで探して用意されていました。そういうココロが喜ぶツールは、人生にはとても大切なことだと思います。



Photo: Kazuo Nakano
Edit: Kazuo Nakano / Shutterstock.com

発売予定車

〈一例：車いすからの平行移動をアシストする装備〉



お知らせ

県内ソーシャルワーカー3団体合同＜新年互礼会＞開催

ネットワークを広げましょう！

県内ソーシャルワーカー3団体（広島県社会福祉士会、広島県精神保健福祉士協会、広島県医療ソーシャルワーカー協会）は、夏の「ソーシャルワーカーデー」イベントとともに合同新年互礼会を共催しています。皆様の親交をじっくりと深め、広めていただければと考えております。今回も豪華景品が当たる「初夢くじ」を用意しています！

10月末開催された実習指導者講習でも受講者の皆さんにお伝えしましたが、ネットワークはソーシャルワーカーの命。名刺を忘れずにご参加ください。

私も何年か前の互礼会で「名刺はメシの種」と題して喋らせていただきました。（生涯研修委員会副委員長 三山 亮）

- 日 時：1月14日（土曜日）18時30分開始
- 場 所：「Fil Rouge」フィルルージュ
広島市中区三川町3-1
WIZWANDERLAND別館3階
- 定 員：60名
- 参加費：3800円



平成28年度会報紙 広告掲載記事を募集中

社会福祉士は、ソーシャルワークの専門職として、地域にある多様な社会課題を解決するなかで、住民の権利擁護への貢献や、ノーマライゼーション社会の実現をめざしています。

現在、会員970人余りで構成する本会は、県民の暮らしに貢献できる職能団体として広く発信していくために会員向けの会報紙「会員便り」、福祉関係団体向けの「特別号」の発行とホームページを活用した広報事業の拡大に取り組んでいます。

については、社会福祉をめぐる現場での課題を共有し、よりよい福祉実践を目指すネットワークをつくるために、本会広報媒体を活用いただきたく、関係諸団体の広告協賛の募集をいたします。

理念の告知、イベントお知らせ、新規事業開始のお知らせ、人材募集情報など、各種の広報と社会資源情報の発信もかねて、ご活用いただきたいと思います。関係各位の広告掲載の申し込みをお待ちしています。

内 容	期間・回数	料金（税別）
「会報紙」記事掲載	単発（1回のみ） 半頁（A5）巻末広告集	15,000円
会報紙へのチラシ同封	1回 A4・1枚	30,000円
ホームページ掲載	1年掲載（バナー）	60,000円
ホームページ記事掲載	1回（1か月ごと）記事掲載	5,000円

【申込み方法】

ホームページ上から「公益社団法人広島県社会福祉士会広告掲載取扱規程」「広告掲載申込書」をダウンロードいただき、本会事務局へお送りください。

編集後記



★今年はインフルエンザなどの感染症が早くから流行していると聞きます。手洗い・うがいなどで体調管理したいと思います。（山根雅）★我が子と田舎の川で魚釣り。最近釣りをする人がいないためか入れ食い状態。昔は男女問わず多くの子どもたちの社交の場となっていたのを懐かしく思うとともに少し寂しく感じました。（巴直）★今年は良い夢見せてもらいました。ありがとう、カープ、ありがとう黒田博樹。（藤浴教）★ボブディラン、ノーベル文学賞受賞おめでとうございます。あなたの音楽を、オンタイムで聞きたかった。歌詞をひしひしと受け止めて青春を過ごしてみたかった。（井唯）★カープ日本シリーズ残念でした。来年こそは日本一なるぞー！！（酒井良）★昨日、仕事上の重要かつ大きなイベントが無事終わり、ほっとしています。終わった～今日はOFF！OFF！！（坂本南）★暑い夏もようやく終わり、急に寒くなりました。今年こそは年賀状を早く投函しようと思います。（幸本）